

# 國島市長に問う!!

9月12日、13日、14日の3日間、16人の議員が市政全般について質問しました。



※本会議などの様子は、市議会のホームページ・ヒットネットTVでご覧いただけます。  
(インターネットでは、当日の生中継のほか録画配信により、閲覧することができます。)

<http://www.city.takayama.lg.jp/gikai/1002453/1004843/index.html>

## 若者の市民参加について



創政クラブ  
伊東寿充議員

問市（実施機関）の行う、施策や事業の政策立案や意思決定につながる審議会等の参加年齢構成比は。  
答把握している市の設置する53の審議会等においては10〜20代で3%、30代4%、40代9%、50代24%、60代36%、70代以上18%となっている。  
問実際の人口年齢区分に照らし合わせても、若者世代の市民参加率は非常に少ない。地域の持続・発展を促すうえでは、次世代の当事者たる若者、背景に子どもたちの意見も持ちうる子育て世代等の意見もしっかり抽出し、市政に反映して行く事

地域の持続発展には若者の活躍が重要。若者政策の拡充を！

が重要である。世代や性別を超えて高山市が一つとなり様々な課題を乗り切っていくためにも、若者参画を促す体制づくり、意識醸成が不可欠であり、行政は民間に先駆けてその意思表示をしていくべきと考える。各種若者政策の拡充とともに、若者政策提案会議といった公的で継続的な組織を設置する必要があるのではないか。  
答若者の考えが事業に活かされたと実感でき、広がりを見せるような仕組みづくりに取り組みたい。若者の市民活動を支援していくとともに意見を抽出していく中で、相互のマッチングを図り会議の設置も検討する。

## 行政対応の進め方の手順と過程について



創政クラブ  
谷村昭次議員

問行政機関での最高執行責任者の立場であるのと例えるならば、副市長は行政事務遂行、つまり、行政の対応における進め方とその過程において、市民目線から納得可能な説明責任を果たし、課題と問題の解決にあたり、どのように政策及び企画をつかさどっているのか。  
答この事案についても、まずは担当部局からの状況を把握し、その考えに至る経過の確認や互いの立場や意見をしっかりと把握し、情報を共有しながら、トツプダウンによることなく事務を行う姿勢である。

副市長の職務と行政事務遂行のプロセスは

また、10年先、20年先の将来への影響を見据えながら、地域特性への配慮もあるが市全体としてどう影響を及ぼすか、どのような評価につながるかを考えつつ、今後の市民生活を考え、市民目線で職務に対応する考えである。

